

氏名	戸 部 和 夫
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1252 号
学位授与の日付	昭和56年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	Electron microscopy of liver lesions in primary biliary cirrhosis (原発性胆汁性肝硬変の肝病変の電顕的研究) 第一編 Intrahepatic bile duct oncocytes (肝内胆管の oncocyte について) 第二編 A bile duct with chronic non-suppurative destructive cholangitis (慢性非化膿性破壊性胆管炎を伴った胆管について)
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 小川勝士 教授 粟井通泰

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

原発性胆汁性肝硬変(PBC)は肝内胆管が慢性、持続性に崩壊・消失する疾患であるが、胆管病変の電顕的観察は、方法論上の困難性もあり殆んど行われていない。著者はこの点を克服し以下の研究を行った。第一編ではPBCおよび対照例の肝内胆管を電顕的に観察し、PBC例の短径80 $\mu$ mの胆管で、ミトコンドリアの著明に増加した上皮細胞群すなわち oncocytes を認め、その出現機序について考察を加えた。第二編では、PBCを組織学的に定義する慢性非化膿性破壊性胆管炎を伴った胆管を光顕的・電顕的に連続切片で観察した。リンパ球は胆管上皮細胞と接触し、圧排し、突起を上皮細胞内に伸ばし、上皮細胞には変性像がみられた。さらに、光顕でみられた胆管上皮細胞内にリンパ球が侵入した emperipolesis 部位では、電顕的にその上皮細胞の壊死所見が観察された。これらの所見はPBCでは胆管上皮細胞に対する lymphocyte cytotoxicity が存在することを示しているものと思われた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は原発性胆汁性肝硬変の肝病変について電顕的研究を行ったものであるが、従来十分観察されていなかった肝内胆管について短径  $80\mu m$  の部でミトコンドリアの著明に増加した上皮細胞群 oncocyte を認め、又上皮細胞の変性についてリンパ球の関与があり Lymphocyte cytotoxicity が存在することを認め、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。